

会 議 録

会議の名称	西東京市教育計画策定懇談会（第4回）
開催日時	平成15年10月10日（金） 午後3時00分から午後5時00分まで
開催場所	保谷庁舎4階 会議室A・B
出席者	<p>【出席委員】（座長）沼本 一、佐藤美子、石田裕子、金子矜一、田辺まさ子、細井邦夫、田口康之、高橋輝夫、渡邊一雄、下栗庸隆、村田眞昭</p> <p>【欠席委員】（副座長）春原由紀、北岡和彦、鶴田勝彦</p> <p>【事務局】（教育長）茂又好文、（学校教育部長）田口秀幸、（教育庶務課長）二谷保夫、（学務課長）坂口基成、（指導課長）松本秋広、（教育相談課長）鈴木三和、（学校教育部主幹）神田孝、（同）内田誠、（指導主事）戸倉務、（生涯学習部長）高橋由行、（社会教育課長）宮寺勝美、（生涯学習部副参与兼スポーツ振興課長）富所利之、（生涯学習部副参与兼田無公民館長）島崎隆男、（保谷公民館長）福本直臣、（中央図書館長）小池博、（教育庶務課庶務係長）白井清美、（同主任）大和田順子、（同主事）山本敏彦</p>
議 題	<p>1 西東京市教育計画（案）の検討</p> <p>2 次回の日程調整について</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・西東京市教育計画（教育プラン21 / 生涯学習） ・特別支援教育に関する講演会の概要 ・初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点記録
発言者名	発言内容
二谷課長	<p>会議を始める前に、前回の会議で質問のあった子育て支援計画との関係についてお答えする。子育て支援計画はまだ策定中で素案なので、事務段階で調整、すり合わせを行っている。</p>
座長	<p>会議を始める。</p> <p>まずスケジュールの変更について。懇談会の会議は6回の予定だったが、9回にすることになった。</p> <p>〔追加資料について説明〕</p> <p>前回までの会議の反省をしてみたが、委員の方たちはいろいろな分野から出ているが、それぞれの分野の意見を代表するということではないことを再確認していただきたい。</p> <p>まず、学校経営の改革について。参考資料として市内の三つの都立高校の学校経営計画を出した。私は自主性、自立性を学校が持つならば必ず説明責任というものが生じると思う。</p> <p>学校がそれぞれ特殊性を出していけば、当然予算も違ってくる。予算の傾斜配分ということになってくる。</p>
A委員	<p>予算の傾斜配分とはどういうことか。具体的にイメージがわからないが。頑</p>

	<p>張ってる学校には予算を多くつけて、そうでない学校は削るということか。人数が違えば予算が違ふというのは分かるが、一人当たりの予算が違ってくるというのは反対だ。</p> <p>市内どの学校でも同じような教育を受けられるということが大事だと思う。極端な言い方をすれば、実績のない所ほど予算をつけてフォローしていくという方が、親としてありがたいと思う。</p>
座長	<p>学校が頑張る、頑張らないということではない。公立学校は学習指導要領に沿ってやるわけだから、その中で基本は確実に定着していく。その上でさらに、特色とか、学校像とかそういうものは学校によって違うのだから、予算が違ってくると思う。</p>
B委員	<p>小学校の例を挙げると、ALTというものがある。昨年度末に教育課程を組む段階で、来年度に総合的な学習で導入するかという打診が全小学校にあった。そして、手を挙げた学校に対して予算配分がある。そういうことがここでいう傾斜配分になるのではないか。必要のない学校にもALTを派遣するんじゃないかと、やる学校には予算措置があるということだ。計画どおりにやって、次年度もやるとなれば同等の、あるいはそれ以上の予算がつく。これが実績に応じた配分だと思う。</p> <p>頑張る頑張らない、いい悪いではなく、あくまで教育課程を組む段階で特色を出すという関連で、そういうことが出るのだと思う。</p>
C委員	<p>実績による配当の部分でお願いしたいのは、B委員のおっしゃることだけならよいが、それにプラスアルファして目標の達成とかを入れるのは子どもにとってよくないと思う。</p>
座長	<p>児童・生徒の実態を把握することが大事だ。それを勘案して予算をつけるべきだ。</p> <p>実績を測るものとして数値目標というものが必要となってくるだろう。</p>
C委員	<p>それは逆で数値目標はない方がいい。数値目標を立てるということは怖いことだと思う。厳しい状況に追い込まれる子どもがいるのではないか。</p> <p>例えばパソコンならば、このレベルまで全員ができるようにしたいという目標を立てて先生と子どもが一体となって取り組んだときに、漏れてしまった子どもたちはどうなるのか。</p>
座長	<p>先程言ったように、そういう状態になる前に児童・生徒の実態を把握すると。やみくもに数値目標を作るわけではない。</p>
D委員	<p>例えば合唱コンクールだとかスポーツとかでいい成績を収めそうだと、そういうときには市としては応援していくと。そう解釈していいのか。</p>
座長	<p>それもある。</p>
D委員	<p>そうすると頑張るのは先生で、先生がどう特色を出していくかということになるのではないか。</p>

座長	今まではそういう個人の問題だったが、これからは組織としての問題だ。
D 委員	いい先生がいたから良くなった、ではなく持続性を持たせなくては。予算化したとたんに先生が替わったから特色が失われるということもある。
E 委員	<p>学校経営計画の中での数値目標というのは、教師側での数値目標だと思う。子どもに対して数値目標を作れば、それは子どもをつぶすことになるかもしれない。高校であれば、義務教育ではないのだから進路に対する数値目標があってもいいが。小中学校であれば、例えば遠足の回数を増やすとか、そういう簡単なレベルでもいいのかなと。</p> <p>義務教育と、その後の選択して行く学校とでは目標というものも変わってくると思う。田無工業高校でこういう数値目標があるのは当然だが、公立の義務教育にそれを当てはめるのは違う。</p>
F 委員	<p>学校経営計画は、「経営」なので競争原理を導入するということになる。計画し、実施し、そして評価する。その評価を課題としてまた計画するということだ。したがって、今までの抽象的な考え方を具体化したものは何なのかということになる。</p> <p>これは当然、学校選択制・小中一貫ともリンクしてくる。それを実施するためには予算が必要だ。効果的な支援をしなければならない。つまり、傾斜配分は特色ある学校づくりへの支援だ。</p> <p>学校といえども競争原理を導入し、経営理念を持たなくてはならない。「開かれた学校」には、経営理念と支援が必要だ。</p>
座長	経営者はグランドデザインを作るということだ。
F 委員	たしか、東京都では数値目標の評価基準を作っている。統一した評価基準がなければ、物差しがなければこれはできない。しかし、各学校によって状況が違うので、評価基準を作るに当たって、教育委員会はよく考えていかなくてはならない。
座長	これからは校長の権限の拡大がなければならない。
G 委員	指導要領などの与えられたもの以外に、それぞれの先生の持っている能力が、校長の主導によって発揮されなくてはならない。先生方が自分の教科以外で能力を発揮する場面が出てくるのでは。
H 委員	先生の研修の機会をできる限り増やして欲しい。先生は教師以外のことをあまり知らないとよく言われるが…。私も今年3月まで東京都教職員研修センターの評価員をしていたが、多くの研修を受けて教育に生かして欲しいと感じていた。
座長	研修は、レクチャータイプのものよりも、人間関係づくりの研修と、体験を伴う研修の方がいいのではないか。
A 委員	先生方の研修がどのようなものか全く分からないのだが、先生個人個人が興味を持って自分で探してきた研修や勉強会に参加する、というようなもの

<p>松本課長</p>	<p>を研修として認めるような体制はできているのか。夏休みも忙しくなり、自由な勉強をする機会が減っている気がする。子どもが生きる力を養っていく段階で、魅力ある先生に接することが大事だ。先生個人の人間の幅を広げる機会が減っているのではないか。</p> <p>先生の研修は大きく分けて3種類ある。仕事としての研修、自分でやっている研修、職務専念義務免除による研修。</p> <p>市で行っている研修は仕事としての研修に当たる。教育相談の研修とか、コミュニケーションの研修などを取り入れている。</p> <p>大学などでやっている研修に参加する場合は、職務専念義務免除の研修になる。</p> <p>個人的な研究や、民間団体でやっている研究に参加する場合は休暇を取ることになる。</p>
<p>座長</p>	<p>先生方がどのような研修があるかを知ること大切だ。</p> <p>小・中連携だけでなく、中・高の連携も重要だ。西東京市の後継者を作るという観点からも、地域の高等学校との連携は必要だ。</p>
<p>I 委員</p>	<p>そんなに今の先生は研修が多いのか。</p> <p>昔は、先生は朝早くから夜遅くまで学校にいた。殴られもした。先生も涙を流していた。それで「自分は悪いことしたな」と感じた。悪いことをすれば、あのころはクラス全員がトイレ掃除もした。最近は生徒にトイレ掃除もさせない。</p> <p>自分の子だって悪いことをしたら殴るだろう。小学校1、2年生の学級崩壊なんて信じられない。悪いことをしたら殴ってもいいではないか。殴る方も感情で殴るのではなくて、それなりの考え方がある。それくらいの先生の強い姿勢があってもよいのではないか。悪い先生は例外だ。</p> <p>話し合いの研修よりも、生徒と接触を持つ時間を増やす方が大切だ。</p> <p>今は父兄も悪いと思う。先生はもっと自信を持ってやるべきだ。</p>
<p>座長</p>	<p>体罰は法的に否定されている。</p>
<p>I 委員</p>	<p>それはおかしいと思う。</p>
<p>A 委員</p>	<p>学級崩壊するのは先生が厳しくしないからだけではない。</p>
<p>I 委員</p>	<p>あれは親が悪い。</p>
<p>A 委員</p>	<p>その親を育てたのは前の世代だが。</p>
<p>I 委員</p>	<p>子どもが少ないから親がかわいがりすぎた。いい学校、いい会社に入ればという考え方だ。</p>
<p>G 委員</p>	<p>そういう考え方を押し付けたのは我々の世代だ。</p>
<p>J 委員</p>	<p>西東京市において学校経営計画、学校運営連絡協議会がうまく機能しているのか。</p>

E 委員	本校の例でいうと、学校運営連絡協議会は8名で構成されている。
J 委員	先生のところは、学校経営計画があるのか。
E 委員	あります。
J 委員	学校の数だけ計画があるということだが、先程の研修を含めて、いろいろな面をそこで網羅しているのか。
E 委員	<p>そうだ。それで1年間学校を動かしていく。校長の経営戦略も入っている。経営戦略があって、それをもとに学校経営をしている。</p> <p>その中で学校評価が必要になる。今まで、学校評価は内部評価だった。学校の中にいる教員が年度末に評価していた。それでは今の時代になじまない。毎月とか、毎学期ごとに評価すべきだ。そして、学校が苦しんでいることを学校運営協議会に助けてもらう。自分はこのような考えでやっている。</p>
J 委員	<p>地域社会と親・子ども、先生という三位一体はうまく機能しているのか。西東京市で、各学校に共通した問題はあるのか。例えば、近隣の地区に比べて学級崩壊が多いとか、非行に走るものが多いとか。あるいはいい面で、大学進学率がいいとか。</p>
松本課長	小・中学校で近隣と比べて特別に違うということはない。
J 委員	<p>平均的な学校経営が行われていると理解してよいのか。</p> <p>新宿区では、子どもたちがかなり周辺の影響を受けているというが、西東京市ではそのようなことはないのか。</p>
座長	それは生徒指導ということか。
E 委員	学校運営協議会について言えば、これは生徒指導ではなく学校経営についてのものだと考えている。
J 委員	今度は先生の問題だが、一般的に先生は全部が健康ではない。1割か1割5分の先生は健康ではないように思う。
E 委員	運営協議会だけ先に説明させていただくと、地域との組織という点で言えば、小学校は強いが中学校は弱い。運営協議会では開かれた学校という視点で話し合いが行われている。
座長	開かれた学校という点で言えば、道徳授業地区公開講座というのはかなりの成果をあげていると思う。
C 委員	学校運営協議会についてだが、これはとてもいい会だと思う。いろいろな意見が出てくるし、そこから何かを生み出していけたらいいと思う。ひとつお願いがあるのだが、委員は校長先生が指名されていると思うが、1人でも2人でも公募をして、気持ちのある方に入っていただきたい。

座長	<p>学校経営計画の改革の中に、危機管理も入れた方がいい。 続いて、学校監査制度について。</p>
J委員	<p>学校監査制度の実施というのは、異色だと思う。監査制度というのは、もともと組織の中にあるものではないか。行政が制度を作って、それを実施するのではないか。この教育計画からは削ってよいのではないか。</p>
座長	<p>私もそう思う。 では、公費・私費の見直しについて、説明を。</p>
坂口課長	<p>東京都が定めた義務教育学校運営標準というのがあるが、その中で私費、個人負担になるものは「通常家庭にある品物で、学校における学習上必要なもので、個人の所有物として学校に持参し得るもの」ということで、例えば個人のハーモニカだとか、教材、縦笛だとか、そういうものについては私費となっている。 もうひとつは、その利益が個人に還元されるものということで、修学旅行の費用だとか、演劇観賞教室の費用だとか。これは私費としている。 西東京市では、個人の所有物であっても、道德の副読本などは公費としている。 合併時に両市の調整の中で、基本的には高い水準の方に合わせるということでそうなった。他市に比べると公費の水準が高いので、見直しも必要と考えている。 ただ、単純に見直しを図るだけではなく、経済的のお困りの方もいらっしゃる。就学援助制度があるが、西東京市の場合では、15%の方がこれを受けている。この水準の維持は図りたいと考えている。</p>
座長	<p>見直しはよいが、それによって質が下がることは避けなくてはならない。学校で、文化・教養的な行事が少なすぎるのではないか。将来、子どもたちのことが心配だ。 次は、学校環境等の整備。</p>
C委員	<p>この老朽校舎の建て替えの部分に、シックスクール対策を追加して欲しい。今回のけやき小学校は、幸いにも児童が入る前だったが...</p>
座長	<p>トイレのグレードアップ改修で、床材をドライ方式にするがあるとあるが、これはどういうものか。</p>
神田主幹	<p>現在のトイレは床がタイル張りになっている。タイルだと、目地においがついて、臭気が取れない。そこで、ドライ化して臭気が蓄積されないようにするというものだ。</p>
B委員	<p>グレードアップで快適にという表現になっているが、具体的にいえば、今一番進んでいるのはセンサーで自動的に水が流れるものだろうか。2番目が手で押すもの。3番目が上にたまって時間がたつと流れるもの。 西東京市としては、グレードアップとしてどの段階にするのか明確にすべきでは。</p>

神田主幹	男子の小便器だが、今後はセンサー式にするつもりだ。
D委員	先日新しくなったけやき小学校を見学してきた。従来の小・中学校の校舎のイメージからは程遠いものだった。ああいう中で行われていくと、教育も変わっていくのではないか。 教室と廊下の仕切りがない。授業をする先生方と設計者の間で話し合いはあったのだろうか。
座長	最近はオープンスペースといって、そういう学校が多くなっている。
D委員	子どもが自由で出入りできることは間違いないが。授業が嫌になった子どもが出ていってしまうのでは。あまりにも広くて、子どもが迷子になってしまいそうだ。
座長	今までの学校は、職員室が中央にあった、図書室が一番端だった。アメリカでは、学校の中心は図書室になっている。
H委員	「特色ある、人に優しい学校施設」と、「余裕教室の活用」というのがあるが、 を に入れた方がいいと思う。 に学校施設として、高齢者・障害者にエレベーターやスロープを、と書いてあるが、 をもっと詳しくするために、余裕教室を使って、学校が地域の共有財産であるということをもっと入れた方がいいのではと思う。
座長	施設の部分はひとつにまとめてもいいと思う。
F委員	「開かれた学校」と安全、セキュリティーというものは矛盾している。そのバランスを調整するための機能が必要だが、けやき小学校の新築において、ハード面で安全を考慮に入れたのか。社会教育ともかかわってくるので、もっと関心を持たねば。 少し前に戻るが、監査制度について。これは教職員個人の服務的な監査と、会計の監査があるが、その辺をもっと整理して欲しい。また、夏休みの社会教育の水泳教室等で公費・私費の問題が出てくると思うが、これは生涯学習の部分に書いてあるのか。 その辺が明確ではないというか、隠れているのではないか。
I委員	この監査や公費・私費の部分は、マニュアルにのっとったものなのか。それとも西東京市独自のものなのか。 なるほど、市独自のものなんですね。先程、削除したらどうかという話が出ていたが。それは簡単にできるということか。
茂又教育長	そういうご意見があったが、私は削る意志は全くない。行政にも監査委員制度はある。これは経費がメインだ。学校の監査はサービスもあるので、これは削れない。 不健康な先生がいるとの話もあったが、当たり前前の方が当たり前前にできるように、こういう制度も必要だ。

C 委員	削る意志がないというのであればお聞きしたいが、どういう形で誰が行うのか。行政が行うということか。
茂又教育長	これは指導課の方で。今も学校を訪問している。提出物がきちんとしていないとか、そういうことは指摘して直していつている。先生をいじめるだとかそういうことではない。
C 委員	この学校の職員の中には、校長先生や教頭先生は含まれるのか。
茂又教育長	学校の責任者として当然含まれる。
J 委員	新たに、教育長の指示のもとに学校監査を行うというのが、今後できるというのであれば、それは大変望ましいことだと思う。 第三者がやる監査もあるが、学校内で検査者を交代でやっていくという方法も今後考えられるのでは。
F 委員	私は、サービスに対する監査と会計への監査が一緒になっているから、整理したらどうかと言った。
J 委員	ここでいう会計帳簿というのは、学校が使う小払いの資金についてだと思う。貸借対照表を作るような会計帳簿ではないと。それならば、会計も出勤簿も一緒のところにあっても、問題ないのではないか。
F 委員	会計は教職員個人が運営しているものではない。学校運営についてのもので、サービスとは別物だ。 サービスは個人に対して、会計は学校に対してということで、性格が違うものだ。
松本課長	並べ方と説明に不足があると思うので、ここは整理したい。
B 委員	ここでいう会計関係の帳簿というのは、例えば、ある学年の1学期の教材費をいくら集めたとか、そういうような会計のことか。それとも市から来る年間の予算を計画的に執行しているか、というような会計なのか。
田口部長	具体的にいえば、市からの予算がどのように執行されているか、伝票はきちんと切られているのか、支払いはされているか、切手は管理されているか、そういったことだ。 もちろん、それとは別に市の監査委員が学校に対して監査を行うこともある。事務手続きとして適性に執行されているかということを見ている。
松本課長	指導課だけでは手に負えない部分もあるので。
B 委員	すると、帳簿ということではないのか。
田口部長	伝票のことになる。
座長	先程のけやき小学校の安全面について説明を。

神田主幹	<p>けやき小学校は1階に校長室や職員室を設けて、校庭の管理をしやすくした。また、昇降口の横に事務室を設けて、訪問者をチェックできる形になっている。これらを設計の中で取り入れた。</p>
田口部長	<p>けやき小学校は、どう「開かれた学校」にするかが第一になっている。地域の市民の施設としてどうするかと。体育館棟の方を開放ゾーン、教室のある方を教育ゾーンとしている。開放ゾーンは一般市民の方に開放していこうと。「開かれた学校」なので、中にも、外にも開かれていなくてはならない。</p> <p>校門は従来どおり通学时以外は閉めている。あまりそうすると、開放の意味がなくなってしまうので、安全面を考慮に入れながら運営していく。来校者証もきちんとつけてもらう。</p>
座長	<p>これからの学校はほかもそうしていくのか。</p>
田口部長	<p>青嵐中学校の建て替えも、基本計画ができ上がってきたところだが、これも開放型施設として、地域の拠点となるようにしていきたい。</p>
C委員	<p>会議前に配られたこの3通の要望書については、懇談会ではなにも検討しないということか。</p>
座長	<p>広く市民の意見を聴くべきだ、という要望書だが、この懇談会自体が各界の代表で構成されている。最終報告の中で、参考にしていくことはあるかもしれない。</p>
C委員	<p>市民との意見交換会というのはというのもないのか。</p>
座長	<p>ここで意見を交換しているから、私はやらなくていいと思う。</p>
C委員	<p>情報公開をして、傍聴も受け入れて、それで要望書が出ているのになにもしないというのは、真の市民参加という点から考えるとおかしい。東京都から表彰されているような団体からも要望が出ているが。</p> <p>今日は時間がないが、検討していただきたい。</p>
H委員	<p>私は今の意見には反対だ。ここには各界からの代表が出ている。</p>
J委員	<p>全く同じ意見だ。この会はそれに対して答える権限はない。</p>
E委員	<p>懇談会ということからすると、そういうことになると思う。</p>
座長	<p>では、生涯学習について説明を。</p>
高橋部長	<p>〔生涯学習の概要について説明〕</p>
座長	<p>次回10月27日は「生涯学習の推進」までやる。</p> <p>これで、会議を終わる。</p>

